

## Destination Therapyの遠隔期・終末期を支える在宅医療の推進と連携強化のための研修

\*<sup>1</sup>九州大学大学院医学研究院重症心肺不全講座, \*<sup>2</sup>九州大学病院循環器内科, \*<sup>3</sup>九州大学病院看護部,

\*<sup>4</sup>九州大学病院医療技術部臨床工学部門, \*<sup>5</sup>九州大学病院心臓血管外科

藤野 剛雄\*<sup>1,2</sup>, 金萬 仁志\*<sup>3</sup>, 定松 慎矢\*<sup>4</sup>, 園田 拓道\*<sup>5</sup>, 阿部 弘太郎\*<sup>2</sup>, 塩瀬 明\*<sup>5</sup>

Takeo FUJINO, Hitoshi KOMMAN, Shinya SADAMATSU, Hiromichi SONODA, Kohtaro ABE, Akira SHIOSE

### 1. 目的

わが国では2021年より植込型左心補助人工心臓(left ventricular assist device, LVAD)による長期在宅治療(destination therapy, DT)が開始され、全国で患者が急増している。DT患者は生涯にわたりLVADとともに生活するため、今後はLVAD患者および介護者の高齢化、それに伴う様々な合併症など、医学的・社会的問題を抱えて自宅での生活が困難となるLVAD患者が増加することは必至である。そのようなLVAD患者を誰がどこで診ていくかは未解決の課題であり、今後は在宅医療を中心とした地域社会が支える仕組みが不可欠である。

今回、在宅医療の現場および連携先のVAD実施施設の多職種チームの活動を見学し、意見交換を行うことで、当院のLVAD治療における在宅医療との連携強化のための活動に還元することを目的に研修を行った。

### 2. 方法・結果

在宅医療クリニックとして、ゆみのハートクリニック、およびゆみのハートクリニック渋谷、また連携するVAD実施施設として東京女子医科大学病院BINDチームにお世話になり、合計2日間の研修を実施した。当院から、循環器内科医師1名、看護師1名、臨床工学技士1名のチームで研修に参加した。

在宅医療研修では、実際のLVAD患者の在宅診療や訪問看護、訪問リハビリテーションに同行した。LVADに関する専門的な知識や技術を有する医師や医療スタッフが在宅医療に関わることの重要性を認識する一方で、在宅医療の

限界や患者家族の負担も実感することができた。また、在宅医療においては、連携するVAD実施施設との細やかな意思疎通が重要であることを認識した。さらに、東京女子医科大学病院での研修では、VAD実施施設側から見た在宅医療との連携強化の工夫を学ぶことができた。

### 3. 考察

本研修の経験を当院多職種スタッフで共有し、在宅医療との連携強化のための取り組みに還元している。在宅医療を含めた他施設との情報共有のための勉強会を定期開催し、LVADに関する知識の底上げを図るとともに、主に在宅医療との情報共有ツールの導入に関し院内の承認を得た。LVADに関する知識を持つスタッフが在宅医療に関わる必要性も認識しており、今後は医療スタッフの教育にもさらに注力する予定である。加えて、在宅での自己管理が困難となったLVAD患者が利用できるような各種の入所施設など、幅広い社会サービスとも連携し、患者と家族を最後までサポートする強固な体制を構築したいと考えている。

本研修で多職種スタッフが得た経験を元に、九州地方におけるLVAD治療と在宅医療の連携をより積極的に推進し、DT患者および家族が遠隔期・終末期に至るまで安心して在宅で生活できるような環境整備に努めたい。

### 謝辞

このたび、チーム医療推進助成に採択いただいた日本人工臓器学会の関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

さらに、このような貴重な研修を快く受け入れて下さったゆみのハートクリニック、ゆみのハートクリニック渋谷、東京女子医科大学病院の関係者の方々にも重ねて御礼申し上げます。

#### ■ 著者連絡先

九州大学大学院医学研究院重症心肺不全講座  
(〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1)  
E-mail. fujino.takeo.982@m.kyushu-u.ac.jp

藤野剛雄：【寄付講座等】アボットメディカルジャパン合同会社、日本メドトロニック株式会社、ニプロ株式会社  
その他の著者には規定されたCOIはない。